

工学部の今、社環のこれから

工学部1号館の建て替え

2016年4月の熊本地震の影響で研究室等を間借りしていた教職員・学生は、2017年3月に黒髪南キャンパスの駐車場に設置されたプレハブ仮設に全員移動し、2017年度をスタートしました。短い春も過ぎ去り、梅雨の季節となり難関の夏場をこれから迎えつつあり、断熱効果の乏しい建物内では、外気温以上になる室内環境が懸念されています。一方、立ち入り禁止となった工学部1号館は、2018年12月の完成を目指しての建て替えが始まっており、取り壊しのためのステンレスの3m程度の外壁に囲まれています。



解体工事中の工学部1号館



工学部仮設校舎B棟内部

新センター、改組について

2017年4月に新たに「くまもと水循環・減災研究教育センター」が立ち上がりました。センター長には柿本教授、専任教員として地下水循環部門には川越教授、濱准教授、伊藤助教、減災型社会システム部門には藤見准教授、地域デザイン部門には星野准教授、円山准教授が就かれることになりました。

また2018年4月から工学部は現行の7学科から4学科に再編する学部改組が計画されています。社会環境工学科は建築学科と統合され土木建築学科となる予定です。新しい学科には、土木工学（社会基盤施設の調査・設計等、資源循環型の環境保全等）地域デザイン（防災や景観等の複雑な地域問題の解決、まちづくり）、建築学（文理融合による魅力的な建築や都市の創造）の3つの教育プログラムを用意し、より魅力的な学科へと移行します。その反面として、在学生のコースの振り分けや研究室配属の決定方法、蘇遙会活動などの検討事項も多数あり、新学科の学生が卒業するまでは、流動的な面もあります。卒業生の皆様には様々な面でご理解、ご協力を頂くこともあるかと思えます。今後とも、蘇遙会へのご支援を直しくお願いいたします。

（運営委員長 辻本剛三）



工学部仮設校舎B棟外観

◆社会環境工学科 学生数

【学部】	1年：78名
	2年：73名
	3年：77名
	（うち編入5名）
	卒研未着手：9名
	4年：8名
【修士】	1年：35名
	2年：46名
【博士】	24名

※学生数はH29年4月末現在の留学生、10月入学予定者、社会人ドクターおよび休学者を含む。

蘇遙会会費納入システムの変更について

去る5月19日に開かれた平成29年度蘇遙会運営委員会において、会費払い込みの方法について、以下のとおり提案され、承認されました。「会費を数年分まとめて払いたい」、「高齢になり振り込みが困難になった」というご意見に対応しました。

支払年度数の選択

支払年度を① 1年払い(3,000円)、② 3年払い(9,000円)、③ 5年払い(15,000円)から選択できます。会費払込票をご確認ください。

終身会員制の導入

卒業・修了から45年以上経過した方へ終身会員制を導入。卒業・修了後55年までの会費を一括納入して下さった方を終身会員とし、その後の会費の納入は不要とします。また6年以上を納入頂いた方へ御礼として熊本大学オリジナルグッズを差し上げます。45年以上経過した方は、55年から現在の卒業後の経過年を引いた年数分の納入となります。また、卒業・修了後55年以上経過している方は本年度分(3,000円)の納入で終身会員となります。詳しくは対照表を参照願います。旧職員の方で、熊大卒業・修了以外の方は65歳以上からを終身会員とし、同じく10年間を対象といたします。

卒業・修了後45年以下の方 (昭和49年3月以降に卒業した方) 終身会員対象ではありません

卒業・修了後45年の方 (昭和48年3月に卒業した方)

10年分の会費をお支払いいただくと終身会員となります

卒業・修了後46～54年の方

(昭和47年3月～昭和39年3月に卒業した方)
10年分から経過年を引いた年数の会費をお支払いいただくと終身会員となります

卒業・修了後55年以上の方 (昭和38年3月以前に卒業した方)

1年分の会費をお支払いいただくと終身会員となります

卒業・修了年対照表

卒業・修了年	経過年数	終身会員会費	オリジナルグッズ
昭和38年以前	55	3,000円	申し訳ございませんが対象外とさせていただきます。
昭和39年	54	3,000円	
昭和40年	53	6,000円	
昭和41年	52	9,000円	
昭和42年	51	12,000円	
昭和43年	50	15,000円	ささやかではございますが、御礼の品をお送りいたします。
昭和44年	49	18,000円	
昭和45年	48	21,000円	
昭和46年	47	24,000円	
昭和47年	46	27,000円	
昭和48年	45	30,000円	対象外
昭和49年以降	44	対象外	

※ご自身の卒業年はデータカードの卒年またはIDを参照ください。
※熊大工学部を卒業して大学院に進学された方は、学部卒業年を基準とします。

蘇遙会への寄付の受け入れ

蘇遙会の存在は、卒業生の皆様にとっては同窓会としての機能しかないのが現状です。しかしながら、卒業生情報を把握することで、各研究室の行事開催や各学年間の情報交換などの一助となっております。多数にわたる会員情報を土木系教室事務室で把握、管理するのは困難であり、同窓会という仕組みが必要です。

その運営に費用が発生するという事をご理解いただけたと思います。

また、蘇遙会学生部は新入生歓迎会などの懇親会の開催、運動会、紫熊祭(大学祭)への参加を行います。他県から親元を離れて進学してきた学生や、なかなか大学になじめない学生などの不安を払拭し、仲間意識を強め、ひいては学業や日常生活に前向きになれる学生が増えるよう、学生部の活動の手助けを会員の皆様をお願いする次第です。

「蘇遙会は学生の『タニマチ』的な存在である」と蘇遙会運営委員会は考えています。会員の方には、在学生へ物心両面でのサポートをお願いしたいと思っています。ご寄附の額は一口 **1,000円**とし、会費と同じ払込票にて納付願います。

ご挨拶 北園 芳人 蘇遙会会長

蘇遙会会員の皆様にはいかがお過ごしですか。

昨年の地震から早くも1年が過ぎました。熊大も工学部1号館(社会環境工学科・建築学科・自然科学系事務部)が被災し、建替えということになり、1号館に入っていた教職員・学生・事務職員は昨年5月から今年2月までは工学部内の空きスペースに間借りしていましたが、今年3月ようやく仮設が完成し、現在は仮設建物に入って居られます。まだしばらくは不自由な環境で研究・勉学に勤しむことになります。熊本市内でも解体工事で空き地が目立つようになり、これから本格的な復旧・復興が始まることになると思います。まだまだ復旧・復興には時間がかかるとは思いますが、頑張っただけのものご期待しています。卒業生の皆様には大学・工学部に温かい支援をいただき本当にありがとうございました。

今年は工学部120周年にあたり、11月4日には記念式典が工学部百周年記念館を中心に開催されます。時間の都合のつく方は、地震後の熊本・大学の現状を見る機会にもなりますので是非熊本へ・大学へお出かけくださいますようお願いいたします。詳しくは工業会のホームページをご覧ください。

最後にうれしいニュースです。昭和45年卒業で建設省近畿地方整備局長を務められました藤芳素生氏が平成29年春の叙勲で「瑞宝中綬章」を受章されました。本当におめでとうございます。熊本大学土木工学科の卒業生からということで我々、卒業生も一層その伝統に誇りをもって、後輩たちに良き伝統を伝えていきたいと思っております。

出前講義開催 H29.6.23

平成29年6月23日4・5限(14:30~17:40)、工学部仮設校舎スタジオにて、山水会・蘇遙会による「出前講義」が開催され、約90名の学生が参加しました。

講師として5名の卒業生が来校し、公務員、ゼネコン、コンサルタント、インフラ系、プラントメーカーなどの仕事に就いた経緯や仕事への情熱を熱く語っていただきました。

就職活動中のさまざまな悩みやジレンマ、就職後の仕事内容への不安は今から就職活動を始める学生にとって必ず立ちちはだかる「見えない」壁となるでしょう。先輩方のリアルな体験談を聞くことで壁を乗り越えるための心構えや準備をすることができるのではないのでしょうか。また、就職後にも資格取得のための勉強や、海外での活躍に備えて語学を習得するなど意欲的に活動している様子を伺うと、就職はゴールで

はなく、就職後も自分を磨くためにさらなる努力が必要だと感じました。

講話には、企業内や現場では熊大(土木系)OB・卒業生同士のつながりがあり、他企業に所属していても同じ現場で出会うこともあり、励ましあったりできるといった話がありました。たとえ在学した時期は違っていても、熊大・土木卒という太い絆が後輩を育てていってくれるのではないのでしょうか。現在学生の彼らも、数年後にはそのような立派な社会人・先輩となってくれることを願います。

今回も、本来の業務で忙しい中、パワーポイントでスライドを作成し、後輩のために無償でこのような場を作ってくださった先輩方に感謝いたします。また、山水会の幹事様はじめ、会員の皆様も企画・準備・当日の進行やフォロー、バックアップにご活躍いただき、ありがとうございました。

◆出前講義講師および山水会幹事

井上 剛介	H26 卒	環境省
宇土 祐一	H26 卒	日本工営(株)
佐々木 菜緒	H27 卒	鹿島建設(株)
佐々 和樹	H21 卒	J-POWER
川久保 祐貴	H20 卒	(株)明電舎
坂西 由弘	H18 卒	鹿島建設(株)
菊池 良介	S53 卒	大日本土木(株)



教室だより

学科長挨拶 重石 光弘

昨年の熊本地震による影響を心配しておりましたが、例年と同様に学部生 75 名、博士前期課程学生 35 名、博士後期課程学生 3 名、計 113 名の学生が卒業、修了を果たされ、新たに 73 名の学部生、30 名の博士前期課程学生、5 名の博士後期課程学生、計 108 名の新入学生を迎えることができました。これもひとえに、地震発生直後よりこれまでにわたり、蘇遙会会員の皆さまからのご支援によります。重ねて御礼申し上げます。

地震以後、各地の復興事業に対し当教室と密接に活動をされてきた減災型社会システム実践研究教育センターは、本年より「くまもと水循環・減災研究教育センター」として内容拡充して全学組織となり、社会貢献が益々期待されています。また、学生によるボランティア組織「熊助組」も学長より表彰を受けるなど、今後も教室の誇りとなる活躍をされることと思います。

さて、一昨年度の大津政康教授に続き、昨年度をもって小林一郎教授と山尾敏孝教授が定年退職されました。当教室における教育貢献は計り知れず、大変に惜しまれるところです。社会におきましてもこれまでに高度な技術を築き上げてこられた多くの優秀な人材が一線を退かれることにより、今後への継承問題が顕在化しているところです。どうぞこれまで大いに活躍されて来られました諸先輩におかれましては、『残す』、『伝える』、そして『渡す』という三つのキーワードをもとに、後進の会員の皆さまをお導き頂ければと、切にお願いするものです。

当教室としましても新たに若き教員をお迎えし、来年度より建築学教室とともに『土木建築学科』を組織して、これからの社会で活躍できる人材養成を目指し、気持ちも新たに教育に力をお尽くしすることをお誓いいたしますので、会員の皆様におかれましては、ご支援とご指導のほどよろしくお願いいたします。

新任挨拶

石田 桂 助教

Kei ISHIDA

河川環境研究室（大本研）



平成 29 年 3 月に熊本大学に赴任して参りました石田桂（いしだけい）です。赴任以前は、日本で博士後期課程修了後、約 5 年間アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるカリフォルニア大学デービス校で研究員をしていました。専門は水文学で、数値モデリングを用いて大気過程も含めた水文事象を対象にした研究を行っています。

水文学では、洪水や渇水といった水に関連する災害も取り扱います。熊本は洪水が起こりやすい地域であるため、これまで培ってきた知識、経験、技術をもって、地域に貢献できればと考えています。

日本の大学で働くのは初めてで、未だ慣れないこと、分からないことも多く、皆様にはご迷惑をおかけすることがあるかと思えます。少しばかり長い目で見ていただければ幸いです。これからよろしく願いいたします。

退官・異動

- 小林 一郎 教授 平成 29 年 3 月退官。同 4 月より熊本大学先端科学研究部(工学系) 特任教授として勤務。
- 山尾 敏孝 教授 平成 29 年 3 月退官。同 4 月より熊本大学シニア教授 デジタルアーカイブ室長として勤務。
- 松田 泰治 教授 平成 29 年 4 月より九州大学工学研究院 社会基盤部門 構造および地震工学講座にて勤務。

教職員紹介

氏 名	職 名	近 況
大谷 順 (地盤工学研究室)	教授	博士 2 名、院生 3 名、学部生 4 名で地盤工学全般の研究および X 線 CT の応用に関する研究を実施しています。
大本 照憲 (河川研究室)	教授	D3:1 名、M2:2 名、M1:1 名、B4:5 名で、河川の基礎研究や、河川災害の研究に取り組んでいます。
尾原 祐三 (地下空間工学研究室)	教授	D2:1 名、M2:3 名、B4:6 名が(D2、M2 の 2 名が留学生)研究に励んでいます。
柿本 竜治 (地域公共政策研究室)	教授	研究室では、UAV により入手したデータを用いたシミュレーションに関する研究、および熊本地震関連のアンケート調査データによる避難者行動分析に関する研究を行っています。
川越 保徳 (水質環境学研究室)	教授	この 3 月で晴れて学科長を退任、4 月からはただの熊大教員として平穏な大学生活を送っております。
重石 光弘 (環境建設材料工学研究室)	教授	学内のパルスパワー科学研究所と共同で放射能汚染コンクリート減容化を目指しています。
辻本 剛三 (応用海岸研究室)	教授	赴任して 2 年目ですが、引き継いだ応用海岸研究室が 15 周年になりました。
溝上 章志 (交通まちづくり研究室)	教授	少子・高齢社会におけるまちづくりや地域づくりに貢献するための交通計画や交通政策について、15 人の学生諸君と一緒に、理論・実証を伴った実践研究を行っています。
尾上 幸造 (複合材料工学研究室)	准教授	今年は 1 年生担任を仰せつかりました。卒業までしっかりケアしていきたいと思います。
葛西 昭 (構造力学研究室)	准教授	構造力学研究室は、橋梁耐震をメイン課題とし、構造物の耐荷力・変形性能という観点で、地震被害を最小限に食い止める研究に取り組んでいます。
佐藤 晃 (深部地下環境工学研究室)	准教授	総勢 6 名の小さな研究室ですが、岩盤の中の不思議を探求すべく研究を進めています。
竹内 裕希子 (地域防災研究室)	准教授	熊本地震時に避難所運営を行った自主防災組織等にヒアリング結果から、「避難所初動運営キット」の開発を行いその活用と普及に取り組んでいます。
田中 尚人 (地域風土計画研究室)	准教授	地域らしさを、地域の方々とともに歴史、自然環境、生活・生業という文化的景観の観点から読み解き、育むための研究・実践を行っています。
濱 武英 (地域水循環デザイン研究室)	准教授	院生 2 名、学部生 4 名で研究活動中。主な調査対象は阿蘇、大津・菊陽、八代の水田地区です。
藤見 俊夫 (災害リスクマネジメント研究室)	准教授	くまもと水循環・減災研究教育センターに移動し、減災・防災研究を進めています。
星野 裕司 (景観工学研究室)	准教授	大学の復興支援プロジェクトの一つ「ましきラボ」を中心にまちづくり活動がんばっています。
円山 琢也 (交通政策分析研究室)	准教授	交通の研究室でしたが、熊本地震後は復興支援の実践的研究活動に注力しています。
皆川 朋子 (河川・流域環境デザイン研究室)	准教授	生態系に配慮した川づくり、環境 DNA を用いた河川環境評価、Eco-DRR に関する研究を行っています。
椋木 俊文 (環境地盤工学研究室)	准教授	総勢 12 人の学生と頑張っています。詳しくは HP をご覧ください。 →→ または「環境地盤工学研究室」で検索願います。
石田 桂 (河川研究室)	助教	赴任して 4 ヶ月たちましたが、まだまだ慣れないことが多く忙しくしております。
伊藤 紘晃 (水質環境学研究室)	助教	熊本大学に来てから約 1 年半が経ちました。プレハブ校舎は案外快適です。

矢北 孝一	技術専門員	友田 桂子	社会環境工学科事務室
友田 祐一	技術専門員	池田 郁子	大本、藤見研究室秘書
外村 隆臣	技術専門職員	園山 恵	尾原、佐藤研究室秘書
吉永 徹	技術専門職員	草場 静香	大谷、椋木研究室秘書
佐藤 宇紘	技術専門職員	森永 尚子	溝上研究室秘書、蘇遙会
上田 誠	技術職員	出田 香織里	田中研究室秘書
		椎葉 真弓	減災センター

学生部活動報告

しぐまさい
紫熊祭

平成 28 年 11 月 4 日(日), 5 日(月), 6 日(火)

4 月	新入生歓迎会
	新入生歓迎バーベキュー
5 月	蘇遙会運営委員会
	意見交換会
6 月	土木ソフトボール大会
	ボウリング大会
7 月	白川クリーン活動
8 月	前期お疲れ会
9 月	蘇遙会キャンプ
	研究室紹介
10 月	工学部運動会
	出前講義
11 月	紫熊祭(大学祭)
1 月	土木球技大会
2 月	追い出しコンパ

熊本大学の学園祭である紫熊祭に今年も蘇遙会として出店し、メロンパンアイスを出店しました。天候にも恵まれ、ミスコンや有名アーティストのライブなど、来場者を楽しませるイベントが多く開催され、たくさんの方が来場していました。今年度は震災復興をテーマに、熊本を盛り上げようと多くの方々にご協力いただき、大規模な学園祭となりました。その中で蘇遙会は 1500 食を販売し、目標を超える売り上げを達成できました。さらに先生方をはじめ、多くのOBや先輩方にも足を運んでいただき、先輩方と下級生の交流の場ともなり、紫熊祭を通して同級生同士の横のつながりだけでなく、先輩と後輩の縦のつながりも深めるいい機会となったと思います。



平成 28 年度の蘇遙会活動は震災の影響から例年よりも活動行事が減り、規模も小さい中での開催となりましたが、社会環境工学科のつながりを強く実感できた 1 年となりました。この一年間の活動を通して重石先生を始め多くの先生方、さらには土木卒業の方々にご協力いただき大変感謝いたしております。

なお、蘇遙会学生部活動の一部を Facebook にて公開しています。



蘇遙会学生部

◆平成 29 年 3 月学部卒業生進路(順不同)

国土交通省九州地方整備局、熊本県、福岡県、長崎県、愛媛県、熊本市、直方市、(株)NIPPO、(株)前田建設工業、五洋建設(株)、大成建設(株)、大林組、東急建設(株)、内山緑地建設(株)、日特建設(株)、ヤマックス(株)、(株)Impression、(株)オリエンタルコンサルタンツ、九州建設コンサルタント(株)、大日本コンサルタント(株)、中央コンサルタント(株)、東京建設コンサルタント、内外エンジニアリング(株)、(株)名村造船所、中国電力(株)、西日本高速道路(株)、西日本旅客鉄道(株)、熊本大学大学院自然科学研究科博士前期課程、京都大学大学院地球環境学舎博士前期課程、大阪大学大学院・工学研究科、熊本銀行

◆平成 29 年 3 月大学院卒業生進路(順不同)

国土交通省九州地方整備局、熊本県、佐賀県、熊本市、山口大学大学院、(株)NIPPO、(株)大林組、鹿島建設(株)、清水建設(株)、大成建設(株)、エアリアルンク(株)、サンコーコンサルタント(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術研究所、(株)不動テトラ、中央コンサルタンツ(株)、東京建設コンサルタント(株)、日建設シビル(株)、日本工営(株)、復建調査設計(株)、(株)横河ブリッジ、九州旅客鉄道(株)、西日本高速道路(株)、熊本県土地改良事業団体連合会、熊本大学大学院自然科学研究科博士後期課程

寄稿

同窓会だより



※沢山のお写真をいただきました。
掲載できなかったお写真はホームページ「寄稿」に掲載しています。

熊大土木系49入学同窓会を
開催しました。

平成29年5月20、21日(土・日曜)アーデンホテル阿蘇で熊大土木系49入学同窓会を開催しました。

参加者は、北園先生、(土木)内田、榎本、大石、緒方、菊池、河野、佐渡、佐藤、園田、多久、鶴久、栃原、中尾、中川博、中川裕、永田、永野、馬場、松田、松原、蓑田、安村、(環土)伊藤、緒方、開、猿渡、御手洗、山田の29名と奥様同伴が一人の総勢30名でした。

今回は、熊本地震の被害・復興状況をバスで見学、熊本城と益城と西原と阿蘇に向いました。西原の桑鶴大橋の現場では日立造船JVの担当者が説明。二日目は阿蘇大橋や立野等の被害状況を、北園先生の貴重なご説明を頂きながら見学しました。先生には大変お世話になりました。

ホテル大広間での宴会は、皆の近況報告等で盛り上がり、二次会は小部屋に場所を移して深夜まで語り合いました。

次会は、3年後の東京オリンピックの年とし、夫婦同伴を促す為、黒川・湯布院辺りでゴルフと観光を組み合わせて同窓会を開催する事と致しました。今回、残念ながら参加出来なかった方は、次回は是非にも夫婦同伴にてご参加下さい。

(S53卒 園田 昇 様 寄稿)

◇卒業生の動向◇

【物故者】2016年4月～2017年6月にご連絡があった方。()内は没年月。

■熊本高等工業学校

- S14 卒 田野 義則 様(不明) S15 卒 井上(岡部) 秀幸 様(2015.2)
- S16 卒 岩田 隆 様(2016.9) S16 卒 高野 満洲男 様(2016.5)
- S17 卒 林 次男 様(2012) S18 卒 高橋 安行 様(2016.5)
- S19 卒 小笠原 長二 様(2016.6) S19 卒 奥田 榮一 様(2013.1)
- S19 卒 神田 信彦 様(不明) S19 卒 島本 信義 様(2016.4)
- S19 卒 吉田 晃治 様(2016.6)

■熊本工業専門学校

- S23 卒 荒木 正則 様(2012.5) S24 卒 桑原 宏次 様(2012.5)
- S25 卒 島 常信 様(2012.11) S25 卒 嶋田 早多夫 様(2016.11)
- S25 卒 嶺川 敏雄 様(2016.8) S26 卒 徳弘 眞 様(2016.9)

■熊本大学工学部

- S28 卒 諏訪 行美 様(不明) S29 卒 馬場 駿治 様(2015.9)
- S30 卒 田代 末信 様(2016.1) S30 卒 益満 末男 様(2016.2)
- S32 卒 福山 陽三 様(2016.7) S33 卒 生山 舜夫 様(2012.11)
- S35 卒 永友 義敏 様(2016.7) S35 卒 宮崎 雄二 様(2010)
- S40 卒 石井 宏和 様(2014.8) S40 卒 藤本 康孝 様(2016.2)
- S45 卒 吉村 健 様(2015.4) S52 卒 田上 哲哉 様(2016.8)
- S55 卒 平野(前川) 彰二 様(2016.8) S59 卒 浦野 厚 様(2016.9)

◆蘇遙会会員数

(H29年6月末現在 物故者除く)

北海道	6	滋賀県	9
青森県	1	京都府	24
岩手県	2	大阪府	87
宮城県	10	兵庫県	73
秋田県	0	奈良県	13
山形県	0	和歌山県	5
福島県	3	鳥取県	4
茨城県	20	島根県	8
栃木県	5	岡山県	14
群馬県	9	広島県	54
埼玉県	46	山口県	63
千葉県	96	徳島県	6
東京都	149	香川県	7
神奈川県	102	愛媛県	20
新潟県	3	高知県	6
富山県	0	福岡県	895
石川県	1	佐賀県	120
福井県	2	長崎県	175
山梨県	3	熊本県	812
長野県	1	大分県	214
岐阜県	8	宮崎県	152
静岡県	6	鹿児島県	152
愛知県	37	沖縄県	7
三重県	6	不明・その他	484
合計			3920名

※所在は登録連絡先の住所

平成 28 年度 会計決算報告

科 目	当年度	予 算	増 減	備 考
1.収入の部				
(1) 会費	1,913,000	1,578,000	335,000	正会員 501(過年度分含む)、学生 116
(2) その他収益	14	0	14	預金利息
当期収入合計(A)	¥1,913,014	¥1,578,000	¥335,014	
前期繰越金	¥260,511	¥260,511	¥0	
収入合計(B)	¥2,173,525	¥1,838,511	¥335,014	
2.支出の部				
(1) 印刷費	10,389	11,000	-611	
(2) 通信費	32,474	36,000	-3,526	データカード等再発送費
(3) 交通費	154,420	180,000	-25,580	運営委員会旅費、山水会総会参加旅費
(4) 会議費	50,170	170,000	-119,830	運営委員会開催に伴う諸経費
(5) 学生部	350,000	350,000	0	学生活動費
(6) 事務費	233,534	240,320	-6,786	事務用品、Web システム管理費
(7) 給与	444,000	485,000	-41,000	事務局員アルバイト代
(8) 支払手数料	45,160	45,500	-340	会費振込手数料
(9) 雑費	0	0	0	
支出合計(C)	¥1,320,147	¥1,517,820	¥-197,673	
収支差額(A)-(C)	¥592,867	¥60,180	¥532,687	
次期繰越金(B)-(C)	¥853,378	¥320,691	¥532,687	

※詳細はホームページ (<https://www.web-dousokai.com/soyoukai/>) 運営委員会→平成 29 年度運営委員会報告→平成 28 年度決算報告書 (PDF)をご覧ください。

メールアドレスの登録をお願いします。

会員の方から「メールやニュースレターで情報を受け取れないか」というご意見がありました。昨今、電子メールは一般的な連絡手段となりつつあり、また印刷費、郵送費などの軽減にもなります。

会員情報欄に「事務局からの 連絡先」で受け取り方法を郵送かメールが選択できます。昨年は 22 名の方にメールで情報誌をお送りしました。そのほかの情報もニュースレターなどで発信していきたいと思えます。まずはメールアドレスのご登録をお願いいたします。

〔発行所〕

〒860-8555

熊本市中央区黒髪2丁目 39 - 1

熊本大学工学部社会環境工学科内

蘇遙会事務局

Tel: 096(342)3544

Fax: 096(342)3507

E-mail : soyoukai@kumamoto-u.ac.jp

HP : <https://www.web-dousokai.com/soyoukai/>

〔印刷〕

〒583-0043

大阪市鶴見区今津南 2-7-6

(有)プリンティングサービス

編集後記

このたびの九州地方の記録的な集中豪雨により、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。今なお避難されている皆様、復旧作業に従事されている皆様のご安全を心よりお祈り申し上げます。

3月に仮設校舎へ移動してはや 4 ヶ月が経ちました。教員室、事務室もそれぞれに収まり、これを機に荷物がだいぶスリムになった先生も多いのでは？蘇遙会も仮設校舎の 2 階に部屋を頂き、震災前よりは狭くなりましたが、作業に困らないスペースを確保していただきました。今年度はデータカード・情報誌の発行がやや早くなりましたが、このペースを掴み、毎年迅速な発行・発送を目指したいと思っております。

また、昨年度は多くの方に会費を納入いただき、ありがとうございました。皆様方の後輩を育てるための会費とお考えいただき、本年度も納入のほどよろしくお願ひいたします。(森永)